

## 桜のまちづくり

16ページの地図で  
場所を調べてみよう!

春になるとお花見を楽しむ大勢の区民の姿が見られます。  
緑化運動の中で約1万5,000本の桜が区内に植えられ、桜の名所も数多くできました。

### 小松川千本桜

小松川地区は国・都・区・区民が一丸となり、災害に強い安全なまちづくりを進めてきました。その中で生み出されたスーパー堤防上に、1,000本の桜が咲き誇る名所をめざして整備されたのが小松川千本桜です。

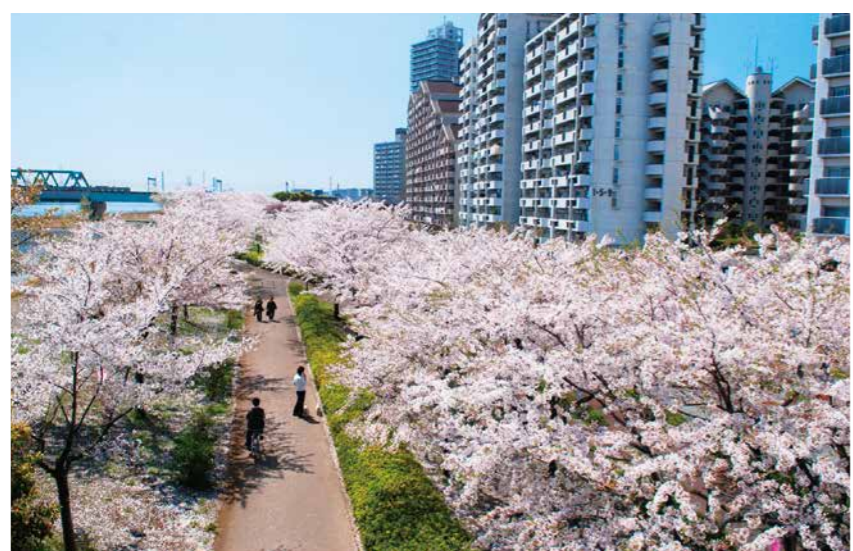
2004年（平成16年）には「小松川千本桜を愛する会」が発足され、桜を育てる活動を行い、春には小松川千本桜まつりを開催しています。たくさんの花見客を迎え、地域ぐるみで日本一の桜の名所をめざしています。



▲整備前の小松川地区



▲整備後の小松川地区



◀小松川千本桜

### 篠田堀親水緑道

篠田堀親水緑道は、昔からある水路の自然を取りもどすため、川底に砂利を敷き、生きものがすみやすい親水緑道として整備されました。

下流部の昔からある桜並木は、毎年見事な桜が咲き、お花見の時期には多くの人で賑わっています。

「篠田堀親水緑道を愛する会」やえどがわ桜守「篠崎桜を守る会」が花壇の花や桜を育て守る活動をしています。



▲篠田堀親水緑道

### 新川千本桜

新川は、行徳の塩を江戸に運ぶ「塩の道」として、約400年前の江戸時代に、徳川家康が命じて作られた水路です。

平成になって、新川の整備が始まったとき、新川を歴史的な財産・桜の名所としてよみがえらせ、未来につなげようという活動が始まりました。2007年（平成19年）に「新川千本桜の会」が発足され、たくさんの区民から桜を植える多くの募金が集まりました。

区民の心を桜に託した「新川千本桜」が完成しました。



▲整備前の新川



▲整備後の新川

### ソメイヨシノ (染井吉野)の誕生

桜は日本を代表する花で、区内には約40種類の品種が見られます。最も数が多いのはソメイヨシノで、区内の桜の約8割をしめます。

ソメイヨシノはエドヒガン（江戸彼岸）とオオシマザクラ（大島桜）を親に誕生し、江戸時代の終わりごろには、染井村（現在の豊島区）で植木職人らに育成されていました。

はじめは「吉野桜」として売られていましたが、染井村の名をとり「染井吉野」と名がつけました。



▲ソメイヨシノ



▲エドヒガン



◀オオシマザクラ

豆知識 まめちしき